

子ども向け防災教育の実施

～「ちびっ子博士」と「サマー・サイエンスキャンプ」～

アウトリーチ・国際研究推進センター アウトリーチグループ 専門職 三好康夫



はじめに

防災科研では、小学生から大学生、一般の方及び防災担当の専門家まで幅広く見学を随時受け入れ、防災教育の一翼を担っております。

また、年1回一般公開を実施し、通常の見学より詳しく施設をご覧いただくと共に、災害に関連した実験教室などを行っております。

これらの取組みのほかに、毎年、夏休みの期間中に小学生から高校生にターゲットを絞り込んだプログラムで防災教育を実践しており、ここではこの2つの取組みについて紹介します。

小中学生向け「ちびっ子博士」

つくば市教育委員会の主催で、近隣の小中学生を対象に科学技術への関心を高めてもらおうと実施されています。当研究所にも決められた日時に、1回250名程度の親子が来所します。

「Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」で、雪崩の実験、液状化現象、建物の固有振動の実験等を行い、子どもたちは遊び感覚で自然災害の怖さと特性を学んでいきます。



建物の固有振動の実験

高校生向け「サマー・サイエンスキャンプ」

第一線の研究開発現場で活躍する研究者から直接指導を受けることが出来る実験・実習を主体とした科学技術に関する体験合宿プログラムで、科学技術振興機構の主催により高校生などを対象として実施されているものです。防災科研では毎年2泊3日での「サイエンスキャンプ」を実施しており、施設見学、特別講義の他に各講師が趣向を凝らした講義・実習が行われます。今年は、「Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」、「土砂災害の実験教室」、「火山が噴火する仕組み」、「地震を知る技術」、「災害から生きる技術」、「竜巻の発生原理と製作実習」、「防災ラジオドラマ」の7つの講義・実習が行われました。

学校の授業では得られない貴重な体験を通して、高校生たちは自然災害・防災の最前線について学んでいきます。



竜巻のデモンストレーション